

令和5年度入学試験問題 外国語・英語問題 出題の意図

本英語問題では、名古屋大学に入学して、英語で書かれた学術誌や書籍を読み、それらを正確に理解し、内容からさまざまな推論ができる英語能力、および英語で表現する力を持っているかどうかを問う。

- I 水泳の歴史を辿る英文記事を読んで、英文を正確に理解する力、理解した内容を日本語で要約・表現する力、段落の主題・意図を読み取る力を測定する。

- II イルカのコミュニケーションに関する論文を読んで、英文を正確に理解する力、段落の主題を読み取る力、理解した内容を日本語で要約・表現する力、文レベルの英文を作成する力を測定する。

- III 食と環境問題の関係に関する友人三人の会話を読み、会話の趣旨を正確に理解する力、英単語・会話的応答表現・比喩的表現を正確に理解する力、会話の理解に基づいて自分の意見を英語で書く力を測定する。

- IV 英語で論文を執筆するためには、関連する情報を正確に理解して、それに基づき自分の考えを論理的に表現できなくてはならない。献血に関するデータをまとめた英文の表から情報を読み取り、その内容に基づいて判断を下し、その根拠を英語で説明する力を測定する。

令和5年度 入学試験 外国語（英語）解答例

I

1. 2 番目 time; 7 番目 learning; 10 番目 swim
2. プラトンが『法律』で述べるように、泳げないことは、文字を読めないことと同様の無知の証とみなされた。
3. 当然のことながら、ギリシャでもエジプトでも水泳が競技会の種目に含まれていなかったことの正確な理由は古代の文書に記されていない。
4. 彼は遠泳によって体育場での訓練を補った。(20 字)
5. Practical instruction manuals on swimming did not appear until the sixteenth century.
6. ① ク ② エ ③ イ ④ ア ⑤ オ ⑥ キ

II

1. イルカ特有の鳴音が人間の名前のように個体の識別に役立つから。(30 字)
2. [ア] E [イ] I [ウ] A [エ] G [オ] C [カ] D [キ] B
3. ① D ② H ③ F ④ G ⑤ A ⑥ C
4. 個々のイルカを識別する鳴音が全て同じになってしまうという問題 (30 字)
5. その中の 5 頭のイルカは、21 年間ともに暮らしてきており、グループのホイッスルを共有していたが、それぞれの個体の識別が可能になる程度の明確な特徴は維持していた。

6. E

III

1. C

2. (a) 4 (b) 5 (c) 3 (d) 9 (e) 6

3. B D

4. (ア) 5 (イ) 3 (ウ) 8 (エ) 7 (オ) 1 (カ) 6 (キ) 2 (ク) 4

5. [Various possible answers]

Some people take their own chopsticks to use when they eat out instead of using disposable ones. This reduces the amount of wood used, which can help prevent deforestation. (29 words)

IV

1. The trend line for younger blood donors shows that from 2000 to 2019 their number decreased by about two million. However, the line for older donors shows that they increased by about one million. Consequently, the line for all donors shows that the total number decreased by about one million. (50 words)

2. Figure B shows that from 2000 to 2019 the amount of blood donated was about two million liters each year. Since Figure A shows that the total number of donors decreased over this period, we can infer that the amount of blood donated per donor on average must have increased. (50 words)